

レースっていいよね
第 62 回 「はじめの一步」 の巻

両親が明日からハワイへ行くらしい。
名目上は会社の研修という事になっているらしいのだが。

政治家の海外視察よろしく、旅の目的は観光に違いない。
真に研修が目的であれば、開放感に満ち満ちたハワイへわざわざ八時間
もかけて行く必然性が見出せない。
しかも、当の研修の当事者である父親はもとより、母親までもが何故か同伴
しているという事実が、「研修」という言葉をさらに胡散臭く感じさせる。

まあ、それは良いのだが。

ウチの両親は元来、あちこち精力的に出掛けるタイプではない。
国内でそんな調子だから、当然海外など論外だ。
今回のハワイ行きが初めての「外国体験」である。

余談だけれど、普段、両親からの電話は掛かってきても、その内容が
得てして大したことが無いので、極力、居留守を使うようにしているのだが
先日、あまりにしつこく、留守録にまで「重要な事なので連絡するように」
などと入れるものだから、渋々ながら久し振りに電話をする機会があった。

そして、その内容たるや、やはり大したコトなかったのも、思わず肩をガックリと
落としてしまったのである。まあ、期待を裏切らないという面においては誠実ではある。
こっちは、今流行りの金銭トラブルか、税金の勧告通知か、と内心ハラハラしながらの
電話だったのに。

その内容とは、かい摘まむところだ。

「外国へ行くのにカネは幾らくらい持っていけば良いのか？」
「そのカネはどこで換えるのか？」

勤勉実直を絵に描いたような父親は、数週間も前からこの旅に不安を
感じていたらしい。

そんなもの、「好きなだけ持って行ってくれ！」と、ポロリと言い放ってしまったが
どうやら当人は真剣に悩んでいるようなので、少々痛ましくなり、ちょっとだけ真面目に
解答してみた。
こと、旅慣れているという点においては、確かにいくら年の功とはいえ、息子に敵うまいて。

しかし。

そう言えば、自分が初めて一人で海外に行った時、そりゃもうドキドキとハラハラの連続
で、何もかもが分からないコトだらけだった。「地球の歩き方」を一時も手放せなかった。

あれは当時イギリスF-3に参戦していた梁川を觀に、オランダはザンドフルトへ行った時だ。
言葉も喋れず、一人ぼっちで、それはそれは心細かった。
でも、あの旅があったお蔭で、当時の固定観念が脆くも崩れ、その後の自分の運命を決定付けた

と言っても過言ではない。

あれが無ければ、自分はダラダラとあのまま井の中でぬるい水に浸かっていたに違いない。

その後、あちこちで様々な人々に出会い、得難い経験を出来るきっかけとなったのだから。

団塊の世代である両親が、海外でどんな体験をするのかは謎だけれど、今まで実直に生きてきた人達だからこそ、きっと異文化というものが新鮮に映るに違いない。

ハワイなら多分、ドルに換えなくても日本円が現地でも使えると思うし、わざわざ英語を話さなくても日本語で充分生活できると思う。見渡せば日本人の方が多と思うし。

けど、真面目だから「ちゃんと話さなきゃ」「チップは幾ら？」とか真剣に悩むんだろな。

だいたい、添乗員がいる筈だから、メンドくさいコトは任せちゃえばいいのに。

そういう、テキトーな事が出来ない人達なんだよなあ、ウチの両親は。

とりあえず、初の海外旅行がビジネスクラスで、なんて贅沢だ！

まあ、歳寄りなんだから、良しとするか。

それにしても。

今、必要以上に円を換えると、現地では良いけど、日本帰ってから泣くよ、間違いなく。

(14Oct03)



[GO to TOP PAGE](#)